

皆野・長瀨ロータリークラブ

週報

- ◇例会日
- ◇例会場
- ◇事務所

第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30
 長瀨レクリエーションホテル 養浩亭
 〒369-1305 秩父郡長瀨町長瀨1446 養浩亭内
 Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134 e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp

UNITE
FOR
GOOD



よいことのために手をとりあおう

第1720回例会 令和8年2月26日(木)

【会長の時間】

畝 徳治

寂しさに。この鐘の・つくづく。思ひを盡くす暁をいつの時にか比べまし

皆さん、こんばんは。今日披露する段落ですが、先日IMで謡わせてもらった続きになります。パターンですが、サシと段階の後にクセという段落があって、その段落自身は長いのですが、クセという段落は、途中で調子が変わるところがあり、そこで区切ってみました。



調べた範囲で2つの和歌が引用されています。

引用されている和歌

山里の 春の夕暮れ 来てみれば 入相の鐘
に花ぞ散りける

意味：春の夕暮れ時、山里へ来て見ると、山寺の入相の鐘の響きとともに桜の花が散っている。

能因法師=のういんほうし。988年頃の生れ。没年未詳。文章生(もんじょせい)となるが26歳の頃出家。



引用されている和歌

待つ宵に 更けゆく鐘の声聞けば 飽かぬ別れの鳥は物かは

意味：男を待つ夜に夜が更けていくことを知らせる鐘の声を聞くと、満ち足りずに別れなくてはならない朝を告げる鶏の鳴き声など大したものだろうか、いや、夜の鐘を聞く心境に比べれば、全然辛い。

新古今和歌集 恋三 1191番

小侍従=こじじゅう。生没年不詳：1121年(保安2年)頃 - 1202年(建仁2年)頃は、平安時代後期から鎌倉時代にかけての女流歌人。



みいでら段落 A

「山寺の・春の夕暮れ来てみれば入相の鐘に。

地「山寺の・春の夕暮来てみれば入相の鐘に。花ぞ散りける。げに惜しめどもなど夢のと暮れぬらん。そのほか暁の。妹背を惜しむきぬぎぬの。怨みを添ふる行くへにも枕の鐘や響くらん。また待つ宵に。更けゆく鐘の聲聞けば。飽かぬ別れの鳥は。物かはと詠ぜしも。戀路の便(たより)の音づれの聲ときくものを。又は老いらくの。寢覚ほど経る古(いにしえ)を。今思ひ寝の夢だにも。なみだ心の

【幹事報告】

山田 利明



- 1.地区事務所より
 - ①月信1・2月号
 - ②台湾囲碁大会の案内
2. 米山記念奨学会よりハイライイトよねやま

